



No. 85

発行人 染野 貴寛  
 発行所・事務局  
 一般社団法人 千葉県社会福祉士会  
 〒260-0026  
 千葉県千葉市中央区千葉港7-1  
 塚本千葉第五ビル3階  
 TEL 043-238-2866 FAX 043-238-2867  
 E-mail office@cschwiba.com  
 ※ 点と線はメール配信でも読めます！



平成26年6月14日 定時総会において新理事が承認されました。2年の任期になります。  
 人と人がつながって、点が線となり、さらにそれが広がり、千葉県社会福祉士会の事業は展開していきます。

新理事の皆さんに、「人生の転機となった1冊の本」を尋ねました。

『書物を読むということは、他人が辛苦してなしとげたことを、容易に自分に取り入れて自己改善をする最良の方法である。』（知への愛と「単に生きるのではなく、善く生きる」意志を貫いた哲学者ソクラテスの言葉より）

本特集が多くの会員と、会の運営が繋がっていくきっかけの一つになれば幸いです。

会長あいさつ	2
新任理事に聞く『人生の中で転機となった一冊の紹介』	3
ソーシャルワーカーデイ特別企画「わたしが救われた一言」	6
地域集会つながるネットワーク 安房地区	9
司法福祉	10
社会福祉士のわ	11
事務局便り	12

# 会長挨拶

千葉県社会福祉士会会長

染野貴寛

本年六月より千葉県社会福祉士会会長を仰せつかりました。

千葉県社会福祉士会の二十周年、先だって、千葉県社会福祉士会創立二十周年記念式典が開催され、歴代の会長から、これからの社会福祉士に向けて強く熱いメッセージをいただきました。これまでの歩みとともに、これからの十年、二十年後に向けて、何をすべきなのか答えをいただくという内容でした。まさに、厳しい現場であっても社会福祉士とソーシャルワークの力を信じて、真摯に課題に寄り添い、分野を問わず分け入って解決に向けてきた言葉がそこにはありました。

近年、ソーシャルワーク技術が社会から必要とされ、広い分野で社会福祉士の任用が認められるといった嬉しい知らせに出会うことが多くあります。こういった知らせを聞くとき、その現場に社会福祉士がいて、資格者として、かかわりのある人へ結果を出していることに、仲間として心から応援しなければならぬと思



左：新会長 右：前会長

ます。同時に、先輩方がその意志を持って日々道を切り開いていらっしやうた事を知り、言葉の力強さに心酔しました。まさに、二十年間の歩みを知り、社会福祉士の成熟を知る式典となりました。

未来に向けて、わたくし染野貴寛は、社会福祉士になって十七年目です。その方の人生に少しでもかわる機会や数が増える度に、似たような理由で困った状態に陥っていたり、決して個人の問題ではない課題を個人が対峙しているなど、ことばを出せない状態になつていく方々とお会いします。アセスメントしながら、世界中でも同じような課題を抱えている方々、その方々向き合っているソーシャルワーカーが多くいることを意識することがあります。その時に「これは社会的な問題である」と認識するのですが、メディアなどでラベリングされていないと、社会的な課題であることに十分な自信がもてず、個別

の課題に一つひとつ寄り添うことだけに終始してしまっていることに、国家資格者として猛省する場面も多くあります。その解決策として、職能団体に所属して活動し、職能の役割として社会に発信していくこと、わたしたち自身が仲間を「つなぎ」「ささえ」「まもる」ことが、より多くの困った状態にある方々をささえ、まもることができると考えています。

近い将来に、どの人も困った状態に陥らない社会となる日が訪れるのならば、個別支援のみで解決できるのですが、人が生きていく限りは、どのような人にも、目を閉じて天を仰ぐような状態になる可能性があります。私たち専門職と専門職団体は後進を育て、得た知識と技術を伝承して、発展させていく使命も与えられていると考えています。この使命を果たすのも職能団体の役割です。

仲間がつながり、課題を持ち、社会へ言葉を発信して、さらに知識・技術を伝承しながら新たな仲間も応援していく団体であり続けることが、千葉県社会福祉士会の役割であると同時に、そこに集まる会員の皆さまのメリットになると考えております。与えられた使命を少しでも果たせるように、千葉県社会福祉士会会員の皆さま、ソーシャルワークを職業とする専門職の皆さまの熱い想いとお力をお借りしながら、まだまだ鼻たれ小僧ですが精一杯務めさせてい

ただきます。

千葉県社会福祉士会に多くの方の御力が必要です。どうぞよろしくお願いいたします。

平成二六年度

千葉県社会福祉士会理事会体制

会長 染野 貴寛  
副会長 相澤 雅則

事務局長 奥野 不二子  
宮間 恵美子  
鈴木 将人

監事 伊達 雅則  
山口 定之

相談役 五十嵐 伸光

総務委員会（企画・広報）  
岡本 武志 小川 晴雄

総合相談委員会  
（地域包括・相談事業）  
渋谷 茂 宮間 恵美子

研修委員会（研修啓発）  
浅見 雅人 神田 一彦

独立型社会福祉士委員会  
（活動養成・社会貢献）  
五月 女直樹

ばあとなあ 大浦 明美 出口 紀子  
櫻井 勉 小川 晴雄

奥野 不二子 吉田 愛子  
災害対策委員会 相澤 雅則

# 特集

## 新しい理事に聞く

### 人生の中で転機となった一冊

【相澤雅則副会長】



私の「人生において転機となった本」は、阿部志郎著『福祉の哲学』です。この度改めて読み返してみましたが、常に心に響く文章が書かれていることを強く感じました。

私は、過去に高齢者、障害者施設の相談員や医療ソーシャルワーカーの仕事をしていましたが、目先の仕事に追われて、福祉の意義や役割を見失っていた時期がありました。その頃、阿部先生が『月刊福祉』のインタビューのなかで「福祉の専門家に必要な事は一度旅に出ること」とお話しされていました。新しい福祉の時代を迎えるにあたり、旅の中で「新しい哲学を自分で苦労しながら構築していくために」というのです。私はこの頃、この言葉に導かれるように仕事を教育の場に移して約十年が経ちましたが、今もなお迷い続いています。

このたび、理事の活動を通じて会の一層の発展を目指すと共に、新たな出会いを通じ、自分自身が成長できる事を願っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【奥野不二子副会長】



最高の恋愛小説「嵐が丘」に感動していた地方の高校生が東京の大学に入り、エンゲルスの「家族・私有財産・国家の起源」を読んだ時の衝撃は忘れられません。しかし、この本でその後の私の人生は変わらなかったようです。

感銘し、強く啓発された本はこれまでも数十冊あっても、人生の転機となった一冊にはまだ巡りあっていません。代わりに、最近二年間で心に残った書物を挙げてみます。「孤独なボウリング」(ロバート・パットナム)、「銃・病原菌・鉄」(ジャレド・ダイアモンド)、「分裂病と人類」(中井久夫)、「私家版・ユダヤ文化論」(内田樹)。小説では「母の遺産・新聞小説」

(水村美苗)

人生の後半で福祉の世界に入ったため、福祉の分野で読むべき本を知りません。「こんな夜更けにバナナかよ」と「精神病院を捨てたイタリア捨てない日本」は過激且ついい本でしたが、会員の皆様からお勧めの一冊を教えてくださいたいと嬉しいのです。

【宮間恵美子副会長】



大河ドラマにもなった山内一豊の妻、千代。司馬遼太郎が大好きで、高校生の時に『功名が辻』を読みました。その時も、千代は素敵な女性だと思ったのですが、就職してからもう一度読み直して、ビビツときちやいました。

組織で働く女性は、大なり小なり「女性であること」で苦労をしているのではないのでしょうか？私も就職して、男性との扱いの違いに悔しい思いをしたわけです。

そんな時、『功名が辻』を読み直して「こんなやり方もあるんだな」と思いました。こんなやり方とは、自分が表舞台にたたくなくても、知恵と人脈を使いつつ、自分のやりたいことを実現していく…という「千代流」のやり方。背景には、家族やふるさとを愛する気持ちが溢れている

。「いいな」と、思いました。自分が…という思いから解放されて、肩の力を抜いて仕事に取り組めるようになったきっかけの一冊です。

【鈴木将人事務局長】



『青春漂流』 立花隆

福祉の世界に飛び込むその前、大学を卒業した私は教育系出版社に就職しました。子ども達の成長に携わる仕事がしたい、と思いつつ営業成績を追求する毎日に疑問を感じていた日々の中で、本を読む余裕もありませんでした。そんな風に前向きになれずにいた頃、二泊の営業力強化研修への参加を命じられた際に艱に忍ばせたのがこの本です。

各界の一線で働く一流の職人達が、なぜその道に踏み込んだのか。その道を選ぶ際に「失うもの」と「得られるかもしれないもの」との狭間でどれだけ葛藤したのか。緻密な取材で構築する人物像はどれも魅力的で、漠然と思いついていた「福祉職人」の道へと私をいざなう道標となりました。

家具職人、ソムリエ、精肉職人などその世界の慣習を踏襲しつつ、これまでになかった視点から新たな一歩を創造する一流達。選んだ道でそ



んな風に胸を張って歩いて行けるようになることを目標と定めるきっかけとなった一冊です。

【岡本武志理事】



「強みを生かす」皆さんは自分の「強み」をすぐに答えられますか。私には五つの強みとなりうる才能があります。最上思考・自己確信・収集欲・学習欲・責任感の五つです。

これは五年ほど前に『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう』(日本経済新聞出版社)のストレングス・フアインダーから導かれたものです。この書籍には、いかに自分の「強み」を活かして生きることが重要かということが、理論や実例を用いて書かれています。自分の強みを知り、それを強化していく方が、弱点の改善に労力を注ぐよりも、はるかに大きな成長を遂げられるということに、私は目から鱗が落ちる思いでした。

この度の理事の就任にあたっては、最上思考と責任感の資質を生かし、千葉県社会福祉士の新たな強みを発見し、伸ばし、磨きをかけ、引き続き会員の皆さまから厚い信頼を得られる組織となるべく、強い責任感を持って理事の役割を果たしたいと考えています。

【小川晴雄理事】



人生の転機になった一冊の中に『聖書』・『資本論』・『源氏物語』のいずれか一つを読み切っていたら、私の人生も今と違っていたかもしれない。

遅読で積ん読の私は、一冊の本を読了するのに一苦労し、少ない本から選ぶとすれば、青年期に読んだ五味川純平著『人間の条件』や西口克己著『山宣』になります。

若い会員の方には、著者・書名ともご存じの方は少ないかと思いますが、学園紛争に遭遇した私に、人間の尊厳性、生き方、国家権力、治安維持法侵略戦争などについて考える機会を与えられました。

戦争前夜の嵐に抗し、治安維持法に命をかけて右翼の凶刃に倒れた山本宣治の言葉に、「山宣ひとり孤塁を守る。だが私は淋しくはない。背後には大衆が支持しているから」を紹介して、人生において転機になった本のご案内にします。

【五月女直樹理事】



転機とまで言えるかどうかかわかりませんが、好きな本の一冊として、青春出版社から出ている、岡本太郎著の『自分の中に毒を持って』という本があります。

氏は幼少のころから、「出る釘は打たれる」という諺に言いようのないドラマを感じていたそうです。個人と社会というふう考えた時、社会はあまりにも残酷で、読んで字の如く出る個性は打たれるのですが、そこにこそ人生のドラマがあり、人生においては常にその道を選ぶ方がよいのだと主張しています。

仕事をしていて、社会というシステムから外れてしまいそうな人達に出会うことがあります。また、自身の中にも既存のシステムから外れるという恐怖もあります。そんな時、既存のシステムにばかり気をとられるのではなく、物事の本質を考えなければならぬという事を思い出させてくれるので、この本が気に入っています。

【浅見雅人理事】



私の人生において転機になった本といえばマーフィー名言集『あなたを成功へ導く568のことば』です。この本に出会ったのは、はじめて社会人として施設に就職した二十歳の

頃でした。この頃の私はどのような方法が効率の良い仕事であるか諸先輩方に教えて頂きながら業務をこなしていました。失敗が続きマイナスの思考が頭から離れることはありませんでした。そのころに書店でふと目にとまったのがこの本です。特徴としては「良いことを思えば良いことがおき、悪いことを思えば悪いことがおき」と言う、潜在意識を視点においた内容でした。その中で特に共感を受けたのが「マイナスは常にプラスに解釈することが、好ましい心的状態を作る」という一文で、これを読んだとき「失敗を嘆いても何も解決にもならない。逆に過去の失敗を多く学んでいるからこそ社会で困窮、悩みを抱えている人に対してやさしくなれる。これからはプラスに変える考え方を意識しながら歩んでいこう。」と思い、今日に至っております。

【神田一彦理事】



学校のゼミ紹介で初めて「その先生」をみた。ブーツ、ジーンズ、たばこ、酒好き。私が学生時代、「その先生」に、福祉現場ではゼミ内容の理解ができないと生意気に話をしたことあった。卒論も、先生のアドバイスを聞かず、もし点数が足りな

かったら、卒業しないで学校やめる、と話をしていた。(一応の)卒業後、何年か経ち、「その先生」にお逢いしたとき、私の学生の頃の話をされていて、かなり、恥ずかしかったこととして今でも鮮明に覚えていて。

その後、「その先生」とお話をする機会がなくなってしまった。二〇一〇年に学生当時の実習担当の先生から「かんちゃんもお世話になっていたでしょ。」と連絡が入った。尾崎新先生は、亡くなられた。

私の卒後、尾崎新先生とお逢いしたとき、亡くなられたとき、先生の著書『「現場」のちから』を読み込む。

私には、現場のこころ活きを表現し、そこでの示唆をしてくれる大切な一冊となっている。

# 【櫻井勉理事】



父が良く本を読んでいたせい、周りに本が置いてあり、雨の日などはすることもなく、そんな本を読み始めたので、小さい時から本を読むのは好きになった。

サラリーマンとして働いていた二年前までの約三〇年間は、片道二〇分、二時間近くの電車通勤で、朝は座れることなく、又誤解を招かないためにも「片手はつり革、も

う一方は文庫本」で、帰りは「眠気覚まし」効果もあるため、ほとんど本を読んでいた。

いまのように老眼鏡も必要でなく裸眼で好きな「歴史ものか推理小説かSF小説」を選んだ。学生時代も仕事を始めてからも司馬遼太郎・吉川栄治・山本周五郎・森村誠一・山田正紀などの長編ものの著作を読んだ。今は時代物・歴史ものの作家も多くなり、宮城谷昌光の中国歴史ものなどが出るという買ってしまうが、結局は何でもありの雑読になっている。

特に心を打たれたのは、大学に入学した頃にたまたま手にした、むのたけじ著『詞集たいまつ…人間に関する断章604』で、何度も何度も読み返した。三省堂発行の薄い新書版であったが、中身は濃い。珠玉の「短い言葉」だからこそ、自分で考えなければならなかった。「人生の指針となる言葉」が、言行一致のジャーナリストにより紡がれ、魅了された。二〇代、進路を決めるとき、会社に入って矛盾に遭ったときや約三〇年勤めた会社を辞めるときなど、じっくり考えなければならぬ時に読んで、感じて勇気づけられた。(一度手に取ってみてください。今は評論社で詞集たいまつⅠⅡⅢⅣⅤまであるそうです。)

これからもこんな「何度も読み返したくなる本」を増やしていきたい。

# 【吉田愛子理事】



私の人生において転機となった本は、どう考えても、幼少時に出会った何冊かの童話だと思う。その中で、ものの考え方や生きる力等々の人生観を教えて貰ったように思う。

昔、ラジオしかない時代に幼少期を過ごした私には、本は本当に魅力的な世界であった。その活字は、私が経験できない果てしない世界へと誘ってくれるものであった。その後六〇数年生きてきて、何冊もの書物に出会った。感動した本、途中で投げ出した本、何度も読んだ本、沢山沢山ある。しかし、残念ながら人生の転機と考えられる本は見あたらない。

学生時代には、図書館の本を全部読んでやると、片っぱしから読みあさり、職場でも図書室の本を借りて読んだ。

最近では、インターネットやTV・ビデオ・DVDなどに時間を割くようになって、なかなか本と向き合う時間が無くなってしまったのがとても残念である。

今回、このテーマをいただいたに返るひとときを得て本当に良かった。感謝です。

# 【大浦明美理事】



一冊の本ではありませんが、『致知』という月刊誌を三年ほど講読していました。私には、印象深く感銘を受けた内容も多々ありました。その中で、特に、私の人生に影響を及ぼした言葉は、「燈照隅万燈照国」でした。それは、比叡山延暦寺を開いた伝教大使、最澄の名言ですが、安岡正篤氏が広く引用していました。

「一つの灯火を掲げて一隅を照らす」、つまり、「人が振り向こうが、振り向くまいがそれは問題ではない。ただ一途に自分の真心を尽くす。そうすると、そんな一隅を照らす行為に励まされた人が、私も一隅を照らすような行為をしようと決意して、いつしか輪は広がっていく。」と述べています。私は、人の行為を見て励まされて、自分もやってみようと思う後発の方ですが、それでも、「まず、自分の居る場所を明るく照らせる人間に」そして、「自分の居るその場を照らす。これは絶対必要なことで、また出来ることだ。」という意識を持つことが大切であると深慮し、人の生き方を学びました。

このようなことを、日頃の福祉支援に当てはめると、その人らしい一燈を照らせるように支援することが

重要に思えます。

（「」は安岡正篤著『活学』より）

【洪沢茂理事】



高校生の頃、世間一般の高校生と同じように世の中はつまらないって思ってた。行儀よく真面目なんてくそくえと思ってた。夜の校舎の窓ガラスは割らなかつたけど。

そんな高校三年生の夏。大好きだった女の子に愛想を尽かされて自分が嫌になり、学校の中で唯一の居場所だったバスケット部を引退して、停学になって、仲間と麻雀浸りだった時期に出会ったのが、ドイツの哲学者ショーペンハウエルの『自殺について』。

論旨は「我々の真実は死によって破壊せられないものである」ということ。その頃の僕は、だったら生きていく意味なんてないんじゃないかと思った。そんな話を駅前のお好み焼き屋で仲間に話したら、オレんジューズを飲みながら泣いてくれた友達がいた。福祉を一生の仕事にしたいと思った始まりです。今読み返すと別の思いもあるけど、それはまた別の機会に。

【出口紀子理事】



お恥ずかしいところですが、人生の転機になるほどのしつかりした本を読んだ記憶がないのです。どちらかと言うとミステリーや、紀行文、少女向きの本など、おおよそ読書が趣味などと言えない状況です。正直恥ずかしいので今回はパスとしたいところですが、お許しはいただけないでしょう。

薄れた記憶をたどっていくと、ふと思い出した本がありました。『典子は今』と言うサリドマイド児のノンフィクションのお話です。映画化されたので、ご存じの方もいることと思います。母親の悲しみや苦しみなど微塵も感じさせない典子の明るさ、ひたむきさ。この強さはどこから来るのだろう。ただただ感じ入るばかりでした。映画も観ました。とても素直に見ることができました。手がなないので、足ですべてを行い、きれいな字を書くのです。こんな表現があります。「ただ少しの援助が必要なだけでふつうの人々。障碍者とは言わない」お互いを知ることが、差別をなくし理解される社会にすることができると、そう強く感じた本でした。

ソーシャルワーカーデイ特別企画  
「私が救われ  
た一言」

紹介者

常盤平地区在宅介護支援センター

社会福祉士・ケアマネジャー

小暮睦真

「ひとりでなんとかなる問題じゃないからみんなで知恵をしぼりましょ。頑張りすぎないで。担当辞めてもいいんだからね。」

誰からの一言？

会社の同僚

経験何年目の時？

地域のソーシャルワーカーとして六年、CMとしての経験二ヶ月目の時  
どんな状況で？

クレーマーの利用者さん。これまで十人以上ケアマネが代わっていた。

る。ケアマネ業務に対し、「紙をもつてくるだけ」と何度ケアマネの役割について説明しても理解をしようと思わず、月二回の訪問の指示とその度に毎回二時間以上にわたりクレームを言われる。ご本人の意向をくみ込んだ居宅計画書の説明をし、サインをもらおうとするが「ふざけるな！自分は個人情報と言っているのにケアマネは自分の住所、連絡先、家族の職場名すら言わない、これ以上一切話はしない」と罵倒され、紙を投げつけられる。それでもご本人と何とか信頼関係をつくらうと訪問し、ご本人の気持ちに寄り添おうと話をする機会をつくった。本人はケアマネを変える気はなく、ケアマネに対しモラルハラスメントをしてどうケアマネが対応してくれるか様子を見ているようだった。

その言葉でどんな影響を受けたか？

何人ものケアマネが代わっており、本人にとってこれ以上ケアマネが代わることは気の毒だ、一度担当したら最後まで責任を持って（胃薬を飲みながらも）頑張ろうと思っていた。その気持ちが空回りしてバーンアウト寸前になっていた。



ひとりでは抱え込まず、事業所のみなが一丸となって自分がケアマネだったかどうか、考えてくれた。担当を辞めてもいい、といわれた時、肩の荷がスーッと降りた気がした。

今後同じようなケースを、自分だけでなく他のケアマネジャーが担当したとしても、バーンアウトする前に支援者の悩みに気づき、チームや職場で対応策を考える、そして何より支援者自身が健康でなければいけないと学びました。

## 紹介者

医療法人社団 有相会 最成病院  
居宅介護支援室 赤田裕基

「やることはたくさんあるけれど、まずはこれを覚えよう。一度にやると混乱しちゃうよね、私もそうだったんだ。次はあれを教えるからね」

## 誰からの一言？

先輩職員からの言葉です。

## 経験何年目の時？

銀行員、デイ介護職、老健介護職、病院ソーシャルワーカー、ケアマネそれぞれ一年目の時です。

## どんな状況で？

たくさん情報があり、自分の中で情報を処理しきれない時というのが新しい職場にはいつも有ります。そんな時、その職場ならではの優先順位というのがありますよね？その優先順位付けの手ほどきをしてくださった状況での言葉です。

## その言葉でどんな影響を受けたか？

指導者は自分よりも先輩なんだよな〜という上に見ていた目線が、自分と同じ同輩なんだという同等の目線に降りてきたような感覚を覚えました。

仕事の優先順位付けは意外と自分の目線で考え、行うものです。だけど新人の時の優先順位付けというのはどこか知識や現場感覚からはかけ離れたものになりがちです。そこで新人は悩んでしましますよね。私の時はどこの職場でも上手に仕事を教えてくださった方というのは、作業効率の良い業務手順を指導してくださるのではなく、多少時

間をかけても一つひとつの手順の意味をゆつくりと教えてくださる方でした。しかも、物語を読むように淡々と進むのではなく、「①今回はこれ、②これは私も覚えられなかったんだ。③次はあれだからね」というように①今回教えてくださったこと、②それに対する自己の体験談、そして③さらりと次回予告という流れは、人間味がどこか感じられてよかったです。

知的好奇心をどこかくすぐり、一度その対話を終わらせる。後を引く話し方なので、なぜなんだろうと自分で考えるようになる。その時の回答は正答とは違っていてもよいのです。その自分で考え出したということが実は一番の経験「知」になったからです。

## 紹介者

市川市 福祉部 福祉事務所  
保護2班 査察指導員 丸島理佳

「生活保護の仕事は、本当に大変よね」

## 誰からの一言？

長く消防（救急）に勤務する女性管

## 理職の方

## 経験何年目の時？

私は、いわゆる「スーパービジョン」を受けたことはないまま、対人援助の業務に二十年以上ついています。年齢はもう四十代ですし、研修などで話されるスーパービジョンをきちんと受ける機会はないのかもしれない。

残念ですが、それが私に与えられた時代や、時間なのでしょう。

それでも、自分の感受性を信じて、新しい情報を受け止め、周囲から学んでいきたいと思っています。多くの対人援助の業務につく人が、「スーパービジョン」というひとつのシステムを利用して、支えを得られることを願っています。

## どんな状況で？

私の勤務先は市役所ですので、上司、同僚といっても、業務内容が対人援助ではない職員がほとんどです。私は、生活保護の査察指導員をしています。このため、救急隊員と接する機会は多く、いつも瞬時の判断が求められ、正直に言えば、言い合いに近いやりとりをすることもあります。先月のこと、私が言いにくそうに自己紹介をすると、彼女は

すぐに「生活保護の仕事は、本当に大変よね」と言葉を返してくださいました。その続きの言葉をそのままお伝えできませんが、生活保護の業務につく私たちが日常抱えているストレスが、見事に表現されていました。

### その言葉でどんな影響を受けたか？

私たちが安心して業務にあたれるのは、やはり、警察、消防の人達のおかげだと思っています。逃げてしまいたくなるような場面でも、必ず現場に来てもらえます。その組織の人からいただいた言葉は、私にとって価値のあるものでした。そして、日々厳しい業務をこなされているであろうその方の、想像力、共感する力に、少なからず驚きました。

このような出会いが、年に数回はあるような気がします。自分の状態や、周囲の状況は違いますが、いつも自分は、社会の中の力のない個人なのだと感じます。

## スーパービジョンを考える

柏市地域生活支援センター  
あいネット

所長 永桶静佳

かなり昔「スーパービジョン」についての講義を受けたのみで語るなどという僭越なことはできないのですが、自身の相談業務経験から少し書ければと思います。私は千葉県単独事業である中核地域生活支援センターを経て、現在、柏市地域生活支援センターという福祉総合相談に在籍しています。制度外の何でも相談ですから内容のそのものの多様さと多岐にわたる相談内容と相談者に鍛えられ、教えられるから、業務を行っている日々です。

三人の方の「私を支えてくれた一言」は、自分で抱え込まざるを得ないと考えていたり、迷っていた状況を言い当ててくれたり、抱え込まなくてもいいんだと気づくなど、様子や話の中での助言や指摘で気持ちが整理できたというものです。悩んでいるときはまず話をきちんと聞いてくれて、自問自答を促される：スーパービジョンは定期的に行うもののようですが、自己開示・自己

覚知に基づいて、自分の引き出しを整理するなどの機会は、感情労働と言われる職務には本来必須なのではないでしょうか。

相談者はその言動などが必ずしも共感できる方ばかりではありません。しかし支援が必要な状況であれば提供する必要があります。拒否的な感情を表してくる場合、相手との信頼関係の構築をがんばるほど消耗し、バーンアウトしてしまうこともあります。

そういった膠着状態のとき、自分の側でできることとして

- ①その人の人間力に着目（俯瞰的・多面的に評価）
- ②誰が困っているのかに戻る（相談者の困り感の見積もり）
- ③一人で抱え込まない（チームで支える）

ことがあります。

相談支援は相手との相互協力なしには成立しません。その関係構築に悩むのは避けられませんが、こちらからみると厄介な言動がご本人にはどういう意味があるか複数でいろいろと考えてみる、ご本人の抱えている課題の緊急度をきちんと見積もり急ぎ支援が必要か否かの問題を整理する、複数で関わる、時間も距離も適宜置いてみる、などを

まずしてみるができます。愚痴も大いに、もちろん言うてよい場で継続した支援をするためには自分の感情に嘘をつき通すことはできませんし、悩みを悩むことのないように。そして、

- ・相手を変えることは至難、こちらがやり方を変えることはできる
- ・説得にかかるよりも納得を得られるような関わりを、煮詰まった時や膠着状態の時などに戻り確認することをこころがけてみましょう。

相談業務には多様な職場や職種があります。生活困窮者自立促進支援事業など新たにソーシャルワークを求められる職場も増えていきます。制度を知ることやそれに伴う知識も多く必要となってきました。専門知識の習得は欠かせないとしても、個人的には時間を作り、気が向くことをする自分の時間確保をお勧めしたいです。最近やたらと本を読みたくなり、電車に乗る機会に読み進めています。思わず笑いだしそうになり危ない人になりそうですが、トルコの諺だそうですが、「明日できることは今日するな」。私なりの解釈ですが、仕事を自分から増やさないことも大事ですね。



# 地域集会 つながるネットワーク

安房地区

「おたがいさまで」笑顔「がいちばん」  
くおたがいさまネットワーク  
まるやまの取り組み  
おたがいさまネットワーク  
まるやま運営委員  
宮原孝行

平成二六年二月七日に開催された安房地域集会では、南房総市（旧丸山町地区）の「おたがいさまネットワークまるやま」について取り上げました。

ネットワークを中心となって運営されている会長さんなど役員三名の方と、その活動を生むきっかけとなり今も活動を支援されている南房総市社会福祉協議会のスタッフの平井様から、目的や取り組み、活動内容などについてご説明いただきました。私自身もこのネットワークの運営委員であり、当日は社会福祉士会の一員としてだけではなく運営に携わる立場として参加した集会となりました。そこで、この取り組みのご紹介を交えながら地域集会の内容についてレポートさせていただきます。

おたがいさまネットワークまるやま（以下「NWまるやま」と呼ぶ）

は平成二五年五月一〇日に地域の住民が中心となり設立された団体です。特徴として会員それぞれのつながりを大事にしていることが挙げられます。

住民一人ひとりが「おたがいさま」の主役として地域のあらゆる分野でつながり「おつきあい」すること「おたがいさまで」【笑顔】がいちばん「を目指すものです。

また、地域の住民間および住民と各種団体間で「おたがいさま」のつながりを強めていくことが重要です。

これは地域にもとある「おたがいさま」のつながりを更に発展させ、双方向性の交流をベースとしてネットワークを構築していく取り組みを行うものです。

NWまるやまは通常の組織とは大きく異なる点がいくつかあるのご紹介します。

まず「事業の主体」と言えば、通常の組織では各々の団体が担っていると思われませんが、NWまるやまでは地域住民（会員）一人ひとりのことであり、自らの意思で、おたがいさまの関係を築き、実践している地域住民一人ひとりが事業主体と



捉えています。

主役となる方は団体に所属するメンバーではなく、NWまるやまでは「おたがいさま」の関係で支援する場合、自らが主役であり、反対に支援を受ける場合には相手が主役となります。「おたがいさま」の関係を有する地域住民全員が主役になり活躍します。

目指す社会像として、通常の組織では社会的弱者を特定の団体が一方的に支援する「一方通行の社会」となりますが、NWまるやまが目指す社会は弱さと強さを合わせ持つ地域住民同士が互いに助け合い、支えあい、補い合う全住民参加による「双方向型（おたがいさま）の社会」を目指しています。

課題解決までの流れについても、通常の組織では予め事業内容を決め、課題解決のために活動しますがNWまるやまは「おたがいさま」の個人同士のつながりをベースとした輪を広げ、そのつながりの中で情報を送受信し合うことで課題解決に結びつけていきます。

事業への参加は、通常の組織では予め決められた内容（事業、日時、場所、参加者）に沿って集まりますが、NWまるやまではやれること（事業）をやれるとき（日時）にやれるところ（場所）でやれる人（参加者）がやるというスタイルで参加の範囲を絞らないこと、何かをしなからでも参加する「ながら参加」が全員参加を可能としています。

会員の要件については、通常の組織では意思決定を団体が行います。しかし、NWまるやまのつながり方は、福祉関係に限らず、サークル活動、近所づきあいなどでもよく、また、おたがいさまの関係は、あいさつレベル、会話レベル、同一行動レベル、相談レベル、信頼レベルのいずれでも良いことになっています。「まさにみんな違ってみんないい！」、会長の笹子勇氏は金子みすずさんの詩「ことりとすずとわたし」を引用しながらお話ししてください。

具体的な活動例の一つに、NWまるやまではつながる仕組み作りとして緊急時安心カプセル配布事業に取り組みできました。一人暮らしの方などは救急車を要請したとき速やかに病院へ搬送するために予め必要な事柄を書き込んでおきカプセルに入れておけば、救急隊はスムーズに搬送できます。南房総市全域でカプセルの配布が行われましたが「民生委員を中心に配布する地区」や「行政が集会場で配布する地区」など配布方法は様々でした。

まるやま地区では以前から実績のあったNWまるやまを活用し、コミュニケーションを取りおたがいさまの関係を築きながら配布することになりました。一度配ったら終わりという事業ではなく、毎年新しい対象者が増える一方で、体調の変化などによる情報の見直しや、定期的な更新が必要となります。この定

期的な見直しなどもNWまるやまならではのきめ細やかな見守りでカバーすることができるとは必ずと考えています。

地域の全員参加が切り開く、住民主体の新しいコミュニティワークが今始まったばかりです。昨今、地域包括ケアとしてインフォーマルな活動・育成が注目され、また専門職としてもインフォーマルな活動とどのように協働していくかが問われていると思います。地域集会に参加いただいた皆さんからもNWまるやまについて多くの質問がされ、関心の高さを感じました。これからもこのような取り組みがあることを、会員を始め多くの専門職にも知っていただき、何か新しいことを始めるきっかけになつていただければ良いなあと感じた地域集会でした。

最後に、今回も会員外の方にも大勢参加いただきましたこと、安房地域集会恒例となりました集会后の懇親会で、仲間同士のつながりが強まったことも付け加えさせていただきます。

## 司法福祉

独立型社会福祉士委員会  
司法福祉グループ

大浦 明美  
民事司法である「障害者虐待防

止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律」は二〇一二年に施行された。特に同居家族による虐待は、暴力による身体的虐待や心理的虐待、経済的虐待等、様々なケースがある。その虐待の理由としては、虐待者の介護疲れや障害への知識不足、家族関係、家庭における経済的困窮などの要因があげられている。家庭内で引き起こされるので、外部からは状況把握が困難な状況があるが、虐待を発見した場合は市町村に通報する義務がある。市町村の具体的対応は、当事者の事実確認及び訪問調査・安否確認を行うと共に、家族等への相談・指導・助言または養護負担の軽減支援にまで及んでいる。場合によっては、成年後見制度の市町村申立ての活用等を検討することも少なくない。

このように虐待防止という「福祉的な問題を解決・緩和する際に、司法法の介入を必要とした司法福祉の実践」について、事例をあげて考えてみたい。

### 創作事例

（父…八五歳・要介護五・国民年金受給、長男…五五歳・無職、二男…五三歳・療育手帳あり・寝たきりの状態）

五年ほど前に母が亡くなったため、長男は二男の親族後見人となり勤めていた製造会社を退職して、寝たきりの父と二男の食事・排泄・入浴等の介助をして日常生活を支えていた。長男自身に収入はなく貯金

も底を突き、父と二男の年金収入で家族は生活しており、経済的困窮状態に陥って行った。昨年、父は体調不良により六ヶ月間療養入院をした。その間の入院費は、二男の障害者基礎年金から支払われた可能性が高い。今年、二男も誤嚥性肺炎により救急車で病院に搬送された。この時、二男には褥瘡が見られ、身体の清潔が保たれていない状況があったことから、長男によるネグレクト的虐待が疑われた。この時点で、父親に対する何らかの虐待も推測された。病院の相談員は、すぐに障害者虐待として市町村に通報した。二男は、身体回復と検査等で二ヶ月間入院した。二男が退院した頃、市役所の障害福祉課の職員が自宅に訪れ、二男の福祉的支援について長男に説明した。その職員の勧めもあり、長男は二男の障害福祉居宅介護サービスの利用を申請することにした。また、家庭裁判所では、後見人である長男の後見業務報告書が未提出であったこと等による調査の結果、職権で専門職後見人を選出し、後見業務の分掌を行った。長男は身上監護のみを担当することになった。

この事例では、家族で生計を一にしていることから、家族員間の経済的扶養と経済的搾取とが渾然一体となつている状態が想定される。また、同居家族の養護者である長男は家族愛を大切にしながらも、養護行動によつては、養護と虐待の境界の

グレーゾーンをさまようこともあるだろうし、扶養の義務と自己犠牲に苛まされることもあると思われる。家族という閉じられた関係（空間）での虐待等を「私（家庭内部）の問題」とするならば、福祉支援には限界があり、福祉の無力さが見えてくる。これを「公の問題」として捉え、障害者虐待防止法、高齢者虐待防止法、あるいは成年後見制度によつて、市町村の職員や専門職後見人等が携わっていくことで、弱者の権利を擁護する方向性が見えてくる。また、司法福祉の実践として、福祉力を発揮することができると。

このような事例は、多く見受けられるのかもしれない。しかし、「私」と「公」の領域の境界の線引きは難しく、児童虐待防止法や配偶者暴力防止法、ストーカー規制法等でも同じようなことが浮上しているが、司法福祉アプローチを速やかに行うことで、虐待や暴力の防止につながっている。（法律等の名称は略称としている）

### 参考文献等

厚生労働省（二〇一二）「障害者虐待防止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律」概要  
日本司法福祉学会編（二〇一二）『司法福祉』生活書院

# 社会福祉士のわ

印西介護相談室

介護支援専門員

五月女 直樹

私は居宅介護支援事業所の介護支援専門員として、在宅のご利用者様やご家族様の相談を受け、ケアプラン作成からサービス調整、市役所や社会福祉協議会、病院等と連携させて頂く仕事を行っています。それまで施設での仕事が多く、当然、施設のご利用者様ともコミュニケーションは欠かせないわけですが、介護支援専門員として、また、違った立ち位置から多くのコミュニケーションの機会をもつこととなり、改めて、相談援助の技術を意識して日々仕事に取り組んでいます。

ご利用者様やご家族様に介護保険制度を説明し、一緒に話し合いながら、サービスを組み立てま

す。介護保険の複雑な制度上の決まりごとを、ご利用者様に納得させて頂くまで説明するのは大変なことではありますが、ご利用者様に主体性をもって課題解決に取り組んで頂くために、非常に大切なことであると考えています。そんな時、先の相談援助技術、特にコミュニケーション技術が重要となります。ご利用者様は沢山の訴えを持っていることが多く、もっぱら聞き役に徹することが多いのが実情ですが、それでも機会をとらえて、説明責任を果たすように心がけています。

支援の過程で、ご利用者様の状態が少しでも良くなったり、生活環境が改善された時は、支援する立場としても嬉しい気持ちになります。逆に、なかなかサービスのマッチングがうまくいかず、支援の体制が構築できないような場合もあり、そんな時は何度でもご自宅に足を運ばせて頂き、調整等をさせて頂くようなこともあります。

一昨年から、私は基礎研修Ⅰ、Ⅱと成年後見人養成研修等を受講しました。私にとって、仕事をしながら研修を受講していくというのは大変なことでもありません。夜遅くまでレポートの作成に追われたり、休日に研修に参加したり…。それでも研修を通じて、実務に役立つような情報を得たり、また、相談援助の基本的なことを改めて再確認するよい機会となる等、得るものが多かったと思っています。また、様々な分野で働いている方々と一緒に研修を受講し、いろいろな立場の意見を拝聴する機会というのは、社会福祉士会の研修ならではのものです。よい刺激にもなっていると思います。

仕事をしていて感じることですが、訪問する様々なご家庭の中には、高齢者だけの世帯や、認知症のため判断能力が低下しているにも関わらず、単独世帯である

ことが少なくありません。介護保険制度だけでなく、障害福祉制度や生活保護制度ほか様々な制度を活用し支援していく必要もあり、支援する側としても、様々な制度の理解が必要となる実情があると思います。そんな時、社会福祉士会で様々な分野の方々と面識を持ち、何か困ったときに相談させて頂ける環境があるということは心強いものだと思います。



**事務局便り**

毎日暑いですね。

UV カット・日焼け防止・涼感・ひんやり 等々 酷暑対策の言葉に踊らされ、試してみても失敗し…を繰り返しております。実際にお使いになり「当たり！」を引かれた方、是非教えてください。（こっそりお願いします。）

さて、第二回定時総会が終了し、会の体制が新しくなりました。事務局含め、改めましてどうぞよろしくお願い致します。

**研 修 等 ・ 行 事 の お 知 ら せ**

○平成 26 年 8 月 23・24 日（土・日） 災害対策研修会 / 告知・募集を HP へ掲載

○平成 26 年 9 月 13 日（土）～ 司法福祉連続研修会 / 告知・募集を HP へ掲載

○平成 26 年 9 月 26・27 日（金・土） 成年後見制度活用講座

○平成 26 年 11 月 15 日（土） ぱあとなあ千葉 登録員・準登録員研修

○平成 26 年 11 月 17・18 日（月・火） 社会福祉士施設実習指導者講習会

※研修等が新に決定した際にはホームページにて随時掲載致します。是非チェックしてください。

千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

**会 員 の 皆 様 へ お 願 い**

お名前・ご住所・電話 FAX 番号・お勤め先等が変更となった場合、変更届の提出が必要です。入会時と変更がある場合は、お早めにお手続きをお願いいたします。

※変更届は日本社会福祉士会ホームページの会員専用ページ「事務諸手続きについてのご案内」からダウンロードが可能です。

当会は会員管理を日本社会福祉士会へ委託しております。よって下記へご連絡頂いた変更内容は月末にとりまとめ、日本社会福祉士会から千葉県社会福祉士会へ届きます。（タイムラグが生じます。）尚、ぱあとなあ登録員の方は「名簿内容変更申請書」と別に、変更届が必要となります。

【提出先：公益社団法人 日本社会福祉士会 事務局】

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 カタオカビル 2 階 TEL03-3355-6541/FAX 03-3355-6543

**お 知 ら せ**

○社会福祉士会のロゴ入り名刺をご入用の方

日本社会福祉士会にて取り扱いをしています（有料）。ぜひご利用ください。

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
鎌形辰也	千葉市		大橋美和	柏市	(株) なな色
中山慶子	松戸市		中山裕一	松戸市	
中村利幸	流山市	月島機械	唐木はるひ	浦安市	
佐藤由奈		たんぽぽハウス	佐藤健一	我孫子市	
川名里織	船橋市		沖田理恵子	東金市	いずみ苑
鎌田洋子		流山ユーアイネット	佐藤裕幸	市原市	辰巳萬緑苑

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

**平成 26 年 5 月末現在の会員数**

正会員 1,319 名、 準会員 5 名、 賛助会員 3 名 合計 1,327 名